

令和5年度 公益財団法人 くまもと里海づくり協会 事業計画書

1 総括

公益目的事業である里海づくり事業は、種苗の生産及び配付を行う「里海づくり推進事業」として、マダイをはじめ5種の魚類と、クルマエビ、アカウニ等4種の介類の生産・配付を行うと共に、技術開発のための「里海づくり技術開発試験」としてクマモト・オイスターの種苗生産・中間育成、キジハタの親魚養成・種苗生産、アサリ・タイラギの中間育成、マコガレイの中間育成試験等に取り組む。

また、里海づくり事業が県民に広く理解を得られるよう「里海づくり事業の啓発普及」を行う。

一方、その他の事業としては、海面及び内水面の水産養殖業の発展を目的に、養殖用等の水産動植物の種苗生産及び配付をする収益事業を行う。(表1 参照。)

2 里海づくり事業(公益目的事業:公1)

(1) 里海づくり推進事業

事業費(前年度):179,808千円(177,466千円)

水産動植物の種苗を生産・育成して放流し、その資源を管理する「つくり育て管理する漁業」を推進するにあたり、生物多様性に配慮した水産動植物の種苗を生産・育成して、市町、漁協、釣り団体等に配付すると共に、その放流効果を検証して、県民に広く啓発・普及することによって、県民生活に不可欠な水産物の安定供給の確保と海洋環境の保護を図る。

ア 水産動植物の種苗生産及び配付

事業費(前年度):173,696千円(171,402千円)

当協会は、熊本県内最大の種苗生産機関として、熊本県が策定する「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」に基づき、県内放流事業に必要な種苗を、市町・漁協などで構成する熊本県栽培漁業地域展開協議会や釣り団体等に配付して、県下全海域の種苗放流事業の促進を図る。

なお、種苗生産・配付する魚介類は、マダイ、ヒラメ、イサキ、カサゴ、アユの5種の魚類とクルマエビ、ガザミ、タイワンガザミ、アカウニの4種の介類、合計9種の魚介類である。(表2-1、表2-2 参照。)

(ア) 水産動物種苗生産業務等受託事業

事業費(前年度):125,877千円(126,002千円)

熊本県からの水産動物種苗生産業務等の受託事業で、生産・配付する種苗は、マダイ、ヒラメ、イサキ、カサゴ、アユの5種の魚類とクルマエビ、ガザミの2種の介類、合計7種の魚介類である。

a マダイ

全長50mm種苗972千尾を生産・配付する。

b ヒラメ

全長30mm種苗87千尾、全長50mm種苗499千尾を生産・配付する。

c イサキ

全長40mm種苗266千尾を生産・配付する。

d カサゴ

全長50mm種苗149千尾を生産・配付する。

e アユ

体重0.3g種苗1,350千尾、体重3.5g種苗63千尾を生産・配付する。

f クルマエビ

全長14mm種苗5,051千尾を生産・配付する。

g ガザミ

3令期種苗626千尾を生産・配付する。

(イ) 有明海漁業振興技術開発事業（種苗生産等）業務受託事業

事業費（前年度）：21,094千円（19,712千円）

熊本県からの種苗生産等業務の受託事業で、生産・放流する種苗は、クルマエビ、ガザミの2種の介類である。

a クルマエビ

放流群毎にDNA標識を付すため、採卵に用いる親エビを限定し、放流群間で混入していない平均全長14mm以上の種苗4,000千尾を試験放流する。
また、放流の早期化を図るため親エビの催熟試験を行う。

b ガザミ

放流群毎にDNA標識を付すため、採卵に用いる親ガニを限定し、放流群間で混入していない1令期以上の種苗1,400千尾を試験放流する。

(ウ) 協会単独種苗生産等事業

事業費（前年度）：26,725千円（25,688千円）

市町等から直接当協会に生産・配付要望を受けて取り組む事業で、生産・配付する種苗は、マダイ、ヒラメ、イサキ、カサゴ、アユの5種の魚類とクルマエビ、タイワンガザミ、アカウニの3種の介類、合計8種の魚介類である。

a マダイ

全長50mm種苗5千尾を生産・配付する。

b ヒラメ

全長50mm種苗125千尾を生産・配付する。

- c イサキ
全長40mm種苗90千尾を生産・配付する。
- d カサゴ
全長70mm種苗43千尾を生産・配付する。
- e アユ
体重3.5g種苗128千尾を生産・配付する。
- f クルマエビ
全長14mm種苗2,000千尾を生産・配付する。
- g タイワンガザミ
1令期種苗190千尾を生産・配付する。
- h アカウニ
殻径10mm種苗274千個を生産・配付する。

イ 共同放流事業の推進

事業費（前年度）：5,435千円（5,405千円）

マダイ・ヒラメ・イサキ・カサゴ・クルマエビ・ガザミの共同放流事業を実施する熊本県栽培漁業地域展開協議会に対し負担金を支出して参画するとともに、事務局として共同放流事業の推進を図る。

同協議会は、マダイは50mm種苗972千尾、ヒラメは50mm種苗587千尾、イサキは40mm種苗266千尾、カサゴは50mm種苗109千尾、ガザミは3令期種苗506千尾の共同放流を行い、クルマエビは有明四県が連携する共同放流事業で40mm種苗1,400千尾を放流する。

また、新たに八代海でのエビ類の共同放流事業を実施する八代海エビ類共同放流協議会の事務局として、共同放流事業の推進を図る。

ウ 種苗放流効果の実証

事業費（前年度）：677千円（659千円）

放流効果を実証していくため、共同放流事業を実施する熊本県栽培漁業地域展開協議会に参画し、県水産研究センターと連携しながら県内主要市場等においてモニタリング調査等を行い、放流魚の混獲率等を把握すると共に、その効果の啓発普及に取り組む。

(2) 里海づくり技術開発試験

事業費（前年度）：31,635千円（34,719千円）

本県の里海づくりにとって有望な水産動植物の種苗生産技術開発試験等を実施すると共に、既存の種類についても種苗性向上及び生産コスト低減の観点から技術向上試験を実施し、効果的な里海づくり事業を促進する。（表3 参照。）

ア 種苗生産技術開発試験

(ア) クマモト・オイスター種苗生産技術開発業務受託

事業費（前年度）：15,944千円（19,006千円）

熊本県の受託事業として、熊本ブランドとして期待されているクマモト・オイスターの大量種苗生産技術の開発試験を行う。

試験では、平均殻高10mm以上の稚貝200千個、平均殻高20mm以上の稚貝100千個を目標に生産を行う。

(イ) キジハタ親魚養成・種苗生産試験

事業費（前年度）：4,282千円（1,490千円）

キジハタ種苗生産に用いる良質な卵を得るための親魚養成・種苗生産試験を行う。

イ 中間育成技術開発試験

事業費（前年度）：11,409千円（12,788千円）

熊本県からの有明海漁業振興技術開発事業（種苗生産等）業務受託事業として、漁獲量が低迷しているアサリ、タイラギ及びマコガレイの資源回復を図るための中間育成技術開発試験を行う。

(ア) アサリ

試験は、民間業者で生産された1mm種苗1,500千個を購入し、海上中間育成施設（フラブシー）を用いて実施する。

(イ) タイラギ

タイラギの人工稚貝の中間育成技術開発試験を行う。

(ウ) マコガレイ

有明海におけるマコガレイ種苗の放流を目指し中間育成技術開発試験を行う。

ウ 種苗生産技術等安定試験

(ア) 量産技術開発のためのデータ収集

事業費（前年度）：0千円（62千円）

里海づくり事業を推進する種苗生産において、種苗性や生産性の向上をめざし技術改良のためのデータ収集を行う。

(3) 里海づくり事業の啓発普及

事業費（前年度）：570千円（496千円）

熊本県栽培漁業地域展開協議会の共同放流事業と連携し、各漁協等が行うマダイ・ヒラメ・イサキ・カサゴ・クルマエビ・ガザミの中間育成及び放流の指導・助言を行う。また、沿海市町と全漁業協同組合が参加して実施する本協議会の共同放流事業の意義と実績を県民に幅広く周知するため報道機関に対し情報提供（プレスリリース）を行う。

この他、施設の見学、教育機関等の研修受入、市町や漁協、地域団体等が主催する体験放流に種苗提供等を実施し啓発普及を行う。

3 その他の事業（収益事業：収1）

事業費（前年度）：1,878千円（2,153千円）

海面及び内水面の養殖業等の振興を主な目的に、養殖用等の水産動植物の種苗生産及び配付を行う。（表4 参照。）

（1）養殖用クルマエビ種苗生産及び配付

養殖用として10～12mm種苗1,200千尾を生産・配付する。

表2 令和5年度里海づくり推進事業－水産動植物の種苗生産及び配付

表2-1 生産計画及び作業スケジュール

魚種名	生産計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
マダイ	〈県受託〉 972千尾 (50mm)				親魚養成						親魚仕立て		
	〈協会単独〉 5千尾 (50mm)	採卵	陸上飼育	海面飼育	出荷 50mm								
ヒラメ	〈県受託〉 87千尾 (30mm) 499千尾 (50mm)				親魚養成						親魚仕立て (親魚成熟促進: 長日処理)		
	〈協会単独〉 125千尾 (50mm)	出荷30・50mm									採卵:	育成	
イサキ	〈県受託〉 266千尾 (40mm)	親魚仕立て					親魚養成						
	〈協会単独〉 90千尾 (40mm)			採卵	育成	出荷 40mm							
カサゴ	〈県受託〉 149千尾 (50mm)				親魚養成						親魚仕立て		
	〈協会単独〉 43千尾 (70mm)		出荷50mm								採仔	育成	
アユ	〈県受託〉 1,350千尾 (0.3g) 63千尾 (3.5g)										卵搬入	出荷 0.3g	
	〈協会単独〉 128千尾 (3.5g)		出荷 3.5g										アユ中間育成施設で育成

〈県受託〉……………水産動物種苗生産事業
 〈協会単独〉……………里海づくり協会単独種苗生産等

表2-2 生産計画及び年間作業スケジュール

魚種名	生産計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
クルマエビ	(県受託) 5,051千尾(14mm) (有明海受託) 4,000千尾(14mm以上) (協会単独) 2,000千尾(14mm)	産卵・育成	産卵・育成 出荷 14mm	産卵・育成 出荷 10mm以上	産卵・育成 出荷 14mm								
ガザミ	(県受託) 626千尾(C3) (有明海受託) 1,400千尾(C1以上)		産卵・育成	産卵・育成 出荷 C1・C3									
タイワンガザミ	(協会単独) 190千尾(C1)				産卵・育成 出荷 C1								
アカウニ	(協会単独) 274千個(10mm)	出荷 10mm										育成開始	

(県受託)……………水産動物種苗生産事業
 (有明海受託)……………有明海漁業振興技術開発事業
 (協会単独)……………里海づくり協会単独種苗生産等

表3 令和5年度里海づくり技術開発試験
試験項目別年間作業スケジュール

項目名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
種苗生産技術開発試験 (オイスター受託) クマモト・オイスター種苗生産技術開発 (協会単独) キンハタ親魚養成・種苗生産			産卵・育成		中間育成			出荷 30mm		継続飼育		
			親魚収容・親魚養成・採卵・種苗生産									
中間育成技術開発試験 (有明海受託) アサリ中間育成技術開発 (有明海受託) タイラギ中間育成技術開発 (有明海受託) マコガレイ中間育成技術開発	継続飼育	継続飼育		種苗搬入			配付		30mm			50mm
	中間育成											
種苗生産技術安定等試験 (県受託)												

(県受託)……………種苗生産技術開発試験等
 (オイスター受託)……………クマモト・オイスター種苗生産技術開発業務
 (有明海受託)……………有明海漁業振興技術開発事業に係る事業
 (協会単独)……………里海づくり協会単独種苗生産等

表4 令和5年度その他の事業計画表－収益事業
生産計画及び年間作業スケジュール

魚種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生産計画 (収益事業) クルマエビ (養殖用) 1,200千尾(10～12mm)		生産開始		出荷								

(収益事業)……………里海づくり協会単独種苗生産等